

平成29年1月
在カザフスタン大使館

「日・カザフスタン外交関係樹立25周年」

川端大使メッセージ

日本政府を代表し、日本とカザフスタンの外交関係樹立25周年をお祝い申し上げます。日本とカザフスタンは、カザフスタンが独立した翌月の、1992年1月26日に外交関係を樹立しました。以来、両国の友好・協力関係は、多くの方々のご尽力に支えられて順調に発展して参りました。

カザフスタンは、1991年8月29日のナザルバエフ大統領の決定により核実験場を閉鎖し、核兵器を放棄した形で独立を果たしました。日本はこれを高く評価し、被曝者救済のための医療支援を行い、放射線医療専門家の養成や医療機材供与によるセミパラチンスクの放射能汚染対策を支援してきました。また非核化を促進するため、新しい町づくりのためのインフラ整備にも協力しました。セメイ市のイルティッシュ川の大橋は両国の友好の橋として地元の人々に愛されています。現在、日本とカザフスタンとの間では様々な分野で協力が進展していますが、ナザルバエフ大統領の非核化イニシアティブこそが日カザフスタン協力の原点になっています。以来国民の間の友好の絆は強化されて来ました。

2011年3月11日に未曾有の東日本大震災に見舞われた際には、カザフスタンから多額の義援金や食糧品の提供を受けました。日本国民はカザフスタンの方々からの温かい支援を決して忘れることなく、心より感謝しています。

近年は両国関係の活発化が見られます。2015年10月には、安倍総理が中央アジア5か国歴訪の締めくくりとしてカザフスタンを訪問しました。総理は、ナザルバエフ大学で講演し、今後の日本の対中央アジア政策の基本が、中央アジアが開かれ安定し自立的な地域として発展することを支援することである旨述べ、カザフスタンを始めとする中央アジア各国との関係を抜本的に強化することを発表しました。安倍総理はスピーチで、産業多角化のための高度産業人材育成の支援や、地域協力の推進のための枠組みである「中央アジア+日本」対話などによる地域の課題へのより積極的な関与、グローバルな舞台での協力の深化などの方針を打ち出しました。

2016年11月6－9日、ナザルバエフ大統領が4度目の日本公式訪問を行ないました。訪問中には天皇陛下との御会見や安倍総理との首脳会談、C I Sの首脳で初めての国会演説、日本の財界・経済界代表との会合、大学訪問等、多くの有意義な行事が催されました。両首脳によって「アジアの繁栄の世紀における拡大された戦略的パートナーシップに関する共同声明」が署名された他、省庁間、企業の間で多くの文書が署名・交換されました。また、ナザルバエフ大統領は、広島を訪問し、核兵器のない世界構築へ向けた強力なメッセージを世界に発されました。1年の間に首脳の相互訪問が実現したことは、日・カザフスタン両国の外交関係において大きな出来事であり、大統領の日本訪問は、両国関係の互いの発展のため大きなインセンティブを与えるものとなりました。

2017年は、中央アジア初の国連安保理非常任理事国に選ばれたカザフスタンと、昨年から同理事国を務める日本が、国連の場で連携を深める重要な1年でもあります。日本

とカザフスタンの外交政策は多くの点で一致しており、今後とも、国連を舞台にグローバルな課題に取り組み、国際社会の平和と発展に向けて共に協力していきます。

また、本年、カザフスタンでは「未来のエネルギー」をテーマとする「2017年アスタナ国際博覧会」が開催されます。アスタナ博日本館のテーマは、「Smart Mix with Technology 〜オールジャパンの経験と挑戦」です。安全で環境に配慮した多様なエネルギーの実現に向けた、日本の取り組みや最先端技術を紹介します。国際博覧会が日本とカザフスタンの間に新たなビジネスチャンスを生み出し、多くの日本人の来訪により人的交流が一層深まることを期待します。

日本とカザフスタンの経済関係は相互補完的であります。カザフスタンには豊富な天然資源と優秀な人的資源があり、日本には、先端技術や「物づくり」のノウハウがあり、産業の多角化やインフラ整備といったカザフスタンのニーズに応えることが可能です。双方の強みを結合させることで、環境や省エネルギー、運輸・物流、鉱物資源探査などにおいて経済協力の可能性は拡大します。ナザルバエフ大統領の訪日中に様々な経済問題が話し合われましたが、その成果を着実に前進させて両国の潜在力に相応しい経済関係を構築するよう努力することが大切です。

文化交流も年々拡大しています。昨年は、生け花や柔道・剣道のデモンストレーション、アルマティ文化デーなどの文化行事に多くの来場者を得ました。カザフスタンでも、日本の漫画やアニメ、寿司・天ぷらといった日本食、日本武道は高い人気を博しています。アスタナ・バレエによる初の来日公演、日本人抑留者の阿彦哲郎氏を描いた劇のカザフスタンでの上演など、カザフスタンの文化芸術において日本との結びつきは一段と強くなっています。学术交流も、歴史、考古学、医療、原子力、宇宙など幅広い分野で盛んです。日本大使館は、我が国の魅力を積極的に紹介し、日本に対する理解者を多く作りたいと考えております。

安倍総理は、ナザルバエフ大統領訪日の際の共同記者発表において、「我々は外見だけではなく、国の歴史や伝統への思い、そして年長者への敬意、おもてなしの心、平和や調和を重んじる精神など、多くの共通点を持っています」と述べました。私も大使としての活動を通じて両国の国民性に共通するものが多くあることを実感しています。共通するものをベースに違いを克服し、互いの理解を深め合うことで、国と国の関係は着実に発展していくものと確信しています。

カザフスタンには、「一度出会えば知り合いに、二度会えば友人に、三度会えれば親族になる」という格言があります。次の四半世紀を見据えて、我々が「親族」となる位、友情を深め合い、両国の関係を発展させようではありませんか。